

小川政弘作「自由③ 罪に縛られて」

- ナレーション 明生君は高校2年生。スポーツマンの上に、明朗な性格だったので、学校のみ名にも人気がありました。小学校のころから教会学校に通っていて、漠然と、自分は教会に通っているからクリスチャンなんだ… と思っていました。
- さて、ある試験の終わった午後、彼は解放感に浸りながら、新宿の街をブラブラとあてどもなく歩いていて、あるポルノ映画館の前で立ち止まったのです。
- 明生(モノログ) ポルノ映画か…。どんなのかな…。 こんなもん、高校生は見ちゃいけないよな。おれまだ17歳だしな。だけど一度だけでいいから見てみたいなあ。ああどうしよう。
- ナレーション 彼を突然襲った衝動と好奇心は、彼の良心と激しく戦いましたが、結局――。
- 明生 (小さい声で) すみません、大人1枚。
- ナレーション 彼は、切符売り場のおばさんのジロツとにらむような視線を背に、逃げるように暗い館内に入りました。
- 音楽 (セクシーなもの)
- ナレーション 映画館を出ると、彼にはすべてがまぶしく、自分がたった今、地獄の穴から独り抜け出てきた、汚れた者のように思えました。けれども、その生まれて初めて見たポルノ映画の印象は、あまりにも強烈でした。“見てはいけないものを見てしまった”という後悔の気持ちを押しのけるように、みだらな男女の絡み合うシーンが、次から次と頭の中を駆け巡るのです。
- 明生(モノログ) あ～あ、おれはなんであんな映画見ちまったんだろう。もしだれかに見られてもしたらどうしよう。これだけ、これ一回きりだ。だけど…。
- ナレーション 彼の味わった体験は、彼をもう一度清い生活に戻そうとするかすかな良心のささやきよりも、はるかに強いものでした。心の中で“いけない、いけない”と思いながら、彼の足は、週末ごとにあの映画館に向かい、人目を忍んでは、つかの間の快楽に浸るようになりました。添えだけではありません。家の近所の自動販売機から、こっそりいかがわしい雑誌を買っては、読みふけるようにまでなったのです。
- ナレーション(エコー)「私には、自分のしていることがわかりません。私は自分がしたいと思うことをしているのではなく、自分が憎むことを行なっているからです。私は、私のうち、すなわち、私の肉のうちに善が住んでいないのを知っています。私には善をしたいという願いがいつもあるのに、それを実行することがないからです。私は、自分でしたいと思う善を行なわないで、かえって、したくない悪を行なっています。もし私が自分でしたくないことをしているのであれば、それを行なっているのは、もはや私ではなくて、私のうちに住む罪です。私は、ほんとうにみじめな人間です。だれがこの死の、からだから、私を救い出してくれるのでしょうか。(ローマ人への手紙 7:15、18-20、24)
- 和子 明生さん、…あ、き、おさん。
- 明生 (ハツと我に返り) ん？ あ、ああ和子さん。
- 和子 どうしたの？ このごろの明生さん、少し変よ。以前なら牧師先生のメッセージを聞くたびに、「よし、やるぞ」って高校生会やいろんな奉仕バリバリやってたのに――。このごろ顔色は暗いし、教会の活動にもちっとも積極的じゃないし。ほんとに一体どうしたの？
- ナレーション 彼女の言うとおりでした。彼はいつしか、以前持っていた喜びと、のびのびした心の自由を

完全に失っていたのです。それはまるで、目に見えない何ものかに、身も心もがんじがらめに縛られているようでした。

そんなある日、ついに彼の恐れていたことが起こりました。映画館を出て小走りに帰ろうとした途端――。

斎藤 よー、明生じゃねえか。こんな所で何してんだよ？

明生(モノローグ) (驚いて)さ、斎藤…。

斎藤 (いやらしく)お前、こんな映画見てたのか。いやー、意外だったな。おれはてっきりお前みてえな教会にも行ってるお利口さんは、こんなもの見ねえと思ってたぜ。(笑う)

ナレーション 彼は、目の前が真っ暗になりました。案の定、うわさはたちまち広まり、クラスのみんなの目は、彼の心に容赦なく突き刺さりました。

明生(モノローグ) もうダメだ！ 分かっていたんだ、いつかはこうなるってこと。うわべはクリスチャンぶって、陰ではこんなこと続けて。“いけない、これは罪だ”って思いながら、ずるずると誘惑に負けてきた。おれは、おれは一体どうすりゃいいんだ?!

ナレーション その時、彼の胸の奥深くに、静かに響いてくる言葉がありました。

(エコー) 「イエスは彼らに答えられた。『まことに、まことに、あなたがたに告げます。罪を行なっている者はみな、罪の奴隷です。奴隷はいつまでも家にいるものではありません。しかし、息子はいつまでもいます。ですから、もし子があなたがたを自由にするなら、あなたがたはほんとうに自由なのです。(ヨハネの福音書 8:34-36)』

明生 (つぶやくように)「もし子があなたを自由にするなら、あなたは本当に自由なのです…。」イ、イエス様、助けてください！

<完>